

科目名	特別研究			担当教員：清水 かおり	
科目名(英語)	Master's Thesis of Science in Nursing				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
8	2	前期・後期	1～2	看研6	月曜日・木曜日6限

1. 授業の概要：

専門演習の履修により作成した研究テーマに即した研究計画書をもとに研究を進め、修士論文を作成する。

倫理審査申請後、研究計画にそって、データの収集、分析解釈、考察など中間発表までの指導を行なう。その後、論文を作成し、公開発表のプレゼンテーションの方法や論文提出までの修士論文作成の一連の指導を行う。

このクラスの研究分野は、看護学教育分野である。具体的には、院内教育の方法と評価、高齢者・成人教育方法論、成人教育技法を基盤とした研究計画にそって、アクションリサーチ、関連図、マインドマップ、マンダラート、KJ法などの質的研究手法を使った研究指導を行い、修士論文を作成していく。

2. 到達目標：

看護学教育分野における研究課題に関する研究計画書に基づいて研究を実施し、その結果を踏まえて修士論文を作成し、公開発表会でプレゼンテーションを行い、最終審査に合格できる。

3. 授業の計画と内容

看護学教育特論Ⅰ、看護学教育特論Ⅱ、専門演習(看護学教育)での学習をふまえて以下の課題に取り組む。

前学期

第1～12週 倫理審査申請後、ゼミで指導を受けながら、研究計画に基づいて、データの収集を行う。
データの分析、解釈、考察などを進める。

第13～15週 中間発表会にむけた準備と中間発表会の実施

9月 中間発表会

9月に研究成果の発表をする場として、中間発表会を行うため、発表の準備を行なう。
発表会で指摘された問題を確認し、課題解決を行う。

後学期

第1～15週 修士論文作成～提出 8月～12月

論文の全体構成、資料・データの分析・整理法、図表の作成、文献検索など、論文作成までの指導を受けながら、論文を完成させ、12月27日までに、修士論文に学位論文審査願及び論文要旨を添えて、指導教員を経て研究科長に提出する。

1月 最終試験の実施

論文内容を中心として口述又は筆記試験により最終試験があるため、その準備を行う。

2月 公開発表会

研究成果の発表の場として公開発表会があるので、指導教員のもとで、発表内容をまとめ、研究成果を発表する。

2月 修士論文の最終提出

最終試験及び公開発表会で指摘された事項を修正した修士論文を最終提出する。

4. テキスト・参考文献：

バーンズ&グローブ(黒田裕子他監訳,2007年)「バーンズ&グローブ看護研究入門：実施・評価・活用」エルゼビア・ジャパン

5. 成績評価の方法：

データ収集・データ分析ならびに研究結果の考察、修士論文の作成の一連の過程における成果ならびに学習態度を総合的に評価する。

6. 履修の条件：特別研究以外の修了要件の履修単位が認定されているか同時履修中であること。

7. その他：特になし

科目名	特別研究			担当教員：横川 裕美子	
科目名(英語)	Master's Thesis of Science in Nursing				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
8	2	前期・後期	1~2	研究室 403	授業内で提示する

1. 授業の概要：

専門演習の履修により作成した研究計画書をもとに研究を進め、修士論文を作成する。倫理審査申請後、研究計画にそって、データの収集、分析解釈、考察など中間発表までの指導を行う。その後に論文を作成し、公開発表のプレゼンテーションの方法や論文提出までの修士論文作成の一連の指導を行う。

このクラスの研究分野は国際看護学分野である。主として、国際看護協力における看護学校や臨床の現場、保健活動に関連する研究について、フィールドワークや面接調査などによる研究手法を指導し、修士論文を作成していく。

2. 到達目標

基盤看護学分野の国際看護学領域において、研究課題に関する研究計画書に基づいて研究を実施し、その結果を踏まえて修士論文を作成する。

3. 授業の計画と内容

基盤看護学特論Ⅰ・基盤看護学特論Ⅱ・専門演習（いずれも国際看護学）での学修をふまえて以下の課題に取り組む。

前期 第1週～第15週

- ① フィールド開拓：研究協力の依頼ならびに研究対象者の選択の過程を通じて、適切なフィールドを開拓する方法を学ぶ。
- ② データ収集の実施：実際にデータ収集を行うことにより、適切なデータ収集の方法ならびにデータ収集に伴う諸問題への対処方法を体験的に学習する。
- ③ データ分析の実施：指導教員のスーパーバイズを適宜うけることにより、分析結果の妥当性・信頼性を高めると同時に、分析能力を培う。

後期 第1週～第15週

- ④ 分析結果の考察：分析結果を踏まえて、文献検討により考察を深める。
- ⑤ 修士論文の作成：一連の研究過程の成果をまとめて修士論文を作成する。

4. テキスト：随時提示する。

「看護研究 原理と方法」監訳 近藤潤子 医学書院

「APA 論文作成マニュアル」APA 江藤裕之他訳 医学書院

5. 成績評価の方法：

データ収集・データ分析ならびに研究結果の考察、修士論文の作成の一連の過程における成果ならびに学習態度を総合的に評価する。

6. 履修の条件：特別研究以外の修了要件の履修単位が認定されているか同時履修中であること。

7. その他：特になし

科目名	特別研究			担当教員：金城 利雄	
科目名（英語）	Master's Thesis of Science in Nursing				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
8	2	前期・後期	1～2	研 405	月曜日・木曜日 7限

1. 授業の概要：

専門演習の履修により作成した研究テーマに即した研究計画書をもとに研究を進め、修士論文を作成する。
倫理審査申請後、研究計画にそって、データの収集、分析解釈、考察など中間発表までの指導を行なう。その後、論文を作成し、公開発表のプレゼンテーションの方法や論文提出までの修士論文作成の一連の指導を行う。
このクラスの研究分野は、高齢者リハビリテーション看護学分野である。主として、高齢者の摂食・嚥下障害に関する看護方法や家族支援について、調査研究法や観察法及び面接法による研究手法を主体に研究指導を行い、修士論文を作成していく。

2. 到達目標：

高齢者リハビリテーション看護学分野における研究課題に関する研究計画書に基づいて研究を実施し、その結果を踏まえて修士論文を作成する。

3. 授業の計画と内容

高齢者リハビリテーション看護学特論Ⅰ，高齢者リハビリテーション看護学特論Ⅱ，専門演習(高齢者リハビリテーション看護学)での学習をふまえて以下の課題に取り組む。

前期 第1週～第15週

- ①フィールド開拓：研究協力の依頼ならびに研究対象者の選択の過程を通じて、適切なフィールドを開拓する方法を学ぶ。
- ②データ収集の実施：実際にデータ収集を行うことにより、適切なデータ収集の方法ならびにデータ収集に伴う諸問題への対処方法を体験的に学習する。
- ③データ分析の実施：指導教員のスーパーバイスを適宜受けることにより、分析結果の妥当性・信頼性を高めると同時に、分析能力を培う。

後期 第1週～第15週

- ④分析結果の考察：分析結果を踏まえて、文献検討により考察を深める。
- ⑤修士論文の作成：一連の研究過程の成果をまとめて修士論文を作成する。

4. テキスト： 研究課題にそって随時提示する。

参考文献： 研究課題にそって随時提示する。

5. 成績評価の方法：

データ収集・データ分析ならびに研究結果の考察、修士論文の作成の一連の過程における成果ならびに学習態度を総合的に評価する。

6. 履修の条件：特別研究以外の修了要件の履修単位が認定されているか同時履修中であること。

7. その他：特になし

科目名	特別研究			担当教員： 玉井 なおみ	
科目名(英語)	Master's Thesis of Science in Nursing				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
8	2	前期・後期	1～2	看研5	火曜日・金曜日 7限
<p>1. 授業の概要：</p> <p>専門演習の履修により作成した研究テーマに即した研究計画書をもとに研究を進め、修士論文を作成する。</p> <p>倫理審査申請後、研究計画にそって、データの収集、分析解釈、考察など中間発表を行う。その後、論文を作成し、公開発表のプレゼンテーションの方法を学ぶ。</p> <p>このクラスの研究分野は、がん看護学分野である。がんの診断時期から終末期まで、がんとともに生きる人々とその家族の体験を広い視野から理解し、対象者の選定や具体的な研究の進め方、データ収集の方法と処理、分析方法、データの解釈について研究指導を行い、修士論文を作成していく。</p> <p>2. 到達目標：</p> <p>がん看護学分野における研究課題に関する研究計画書に基づいて研究を実施し、その結果を踏まえて修士論文を作成する。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>臨床看護学特論Ⅰ（がん看護領域）、臨床看護学特論Ⅱ（がん看護領域）、専門演習（がん看護学）での学習を踏まえて以下の課題に取り組む。</p> <p>前期 第1週～第15週</p> <p>①フィールド開拓：研究協力の依頼ならびに研究対象者の選択の過程を通じて、適切なフィールドを開拓する方法を学ぶ。</p> <p>②データ収集の実施：実際にデータ収集を行うことにより、適切なデータ収集の方法ならびにデータ収集に伴う諸問題への対処方法を体験的に学習する。</p> <p>③データ分析の実施：指導教員のスーパーバイズを適宜受けることにより、分析結果の妥当性・信頼性を高めると同時に、分析能力を培う。</p> <p>後期 第1週～第15週</p> <p>①分析結果の考察：分析結果を踏まえて、文献検討により考察を深める。</p> <p>②修士論文の作成：一連の研究過程の成果をまとめて修士論文を作成する。</p> <p>4. テキスト： 研究課題にそって随時提示する。 参考文献： 研究課題にそって随時提示する。</p> <p>5. 成績評価の方法：</p> <p>データ収集・データ分析ならびに研究結果の考察、修士論文の作成の一連の過程における成果ならびに学習態度を総合的に評価する。</p> <p>6. 履修の条件：特別研究以外の修了要件の履修単位が認定されているか同時履修中であること。</p> <p>7. その他：特になし</p>					

科目名	特別研究			担当教員：永田 美和子	
科目名(英語)	Master's Thesis of Science in Nursing				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
8	2	前期・後期	1~2人	610	

1. 授業の概要：

専門演習の履修により作成した研究テーマに即した研究計画書をもとに研究を進め、修士論文を作成する。倫理審査申請後、研究計画にそって、データの収集、分析解釈、考察など中間発表までの指導を行なう。その後、論文を作成し、公開発表のプレゼンテーションの方法や論文提出までの修士論文作成の一連の指導を行う。

2. 到達目標：

- ①自己の研究テーマに沿って作成した研究計画を実施できる。
- ②高齢者看護学領域の質向上に貢献できる修士論文を作成する。
- ③修士論文を公開発表会でプレゼンテーションし、最終審査に合格できる。

3. 授業の計画と内容

前期

- 第1週～第12週 倫理審査申請後、週2回のゼミで指導を受けながら、研究計画に基づいて、データの収集を行う。
データの分析、解釈、考察などを進める。(永田美和子)
- 第13週～第15週 中間発表会にむけた準備と中間発表会の実施
9月 中間発表会
9月に研究経過および成果の発表の場として、中間発表会を行うため、発表の準備を行なう。
発表会で指摘された問題を確認し、課題解決を行う。(永田美和子)

後期

- 第1週～第15週 修士論文作成～提出 9月～12月
論文の全体構成、資料・データの分析・整理法、図表の作成、文献検索など、論文作成までの指導を受けながら、論文を完成させ、12月下旬までに、修士論文に学位論文審査願及び論文要旨を添えて、指導教員を経て研究科長に提出する。(永田美和子)
- 最終試験の実施 1月
論文内容の審査および口述試験による最終試験があるため、その準備を行う。
論文審査および口述試験を受ける。(永田美和子)
- 修士論文の最終提出 2月
最終試験で指摘された事項を修正した修士論文を最終提出する。(永田美和子)
- 公開発表会 2月
研究成果の発表の場として公開発表会があるので、指導教員のもとで、発表内容をまとめ、研究成果を発表する。(永田美和子)

4. テキスト： 「看護研究 原理と方法」監訳 近藤潤子 医学書院
「APA 論文作成マニュアル」APA 江藤裕之他訳 医学書院
参考文献： 随時提示する。

5. 成績評価の方法：

修士論文審査および口述試験による最終試験の結果、可否の判定を行う

6. 履修の条件：特別研究以外の修了要件の履修単位が認定されているか同時履修中であること。

7. その他：修士論文のゴールをイメージしながら論文作成に臨むこと。

科目名	特別研究			担当教員：小西 清美	
科目名(英語)	Master's Thesis of Science in Nursing				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
8	2	通年	1~2	看研7	火曜日・木曜日7限

1. 授業の概要：

専門演習の授業で作成した研究計画書をもとに研究を進められる。研究遂行のための諸条件を整え、修士論文の完成までの過程を指導する。具体的には、研究計画を倫理審査申請し、承認を得た後、研究を開始する。研究計画にそって、データ収集、データ分析・解析、結果の整理、考察など中間発表までの指導を行なう。その後、論文を作成し、公開発表のプレゼンテーションの方法や論文提出までの過程を指導する。

このクラスの研究領域は、母性看護学領域である。主として、女性の各ライフステージの性と生殖に関する健康問題への援助法について、主観的指標や客観的指標（皮膚表面温度、携帯用心電図：心拍数、心拍変動等）を用いた研究手法を主体に研究指導を行い、修士論文を作成していく。

2. 到達目標：

母性看護分野における研究課題に関する研究計画書に基づいて研究を実施し、その結果を踏まえて修士論文を作成する。

3. 授業の計画と内容

母性看護学特論Ⅰ，母性看護学特論Ⅱ，専門演習(母性看護学)での学習をふまえて以下の課題に取り組む。

前期 第1週～第15週

- ①フィールド開拓：研究協力の依頼ならびに研究対象者の選択の過程を通じて、適切なフィールドを開拓する方法を学ぶ。
- ②データ収集の実施：実際にデータ収集を行うことにより、適切なデータ収集の方法ならびにデータ収集に伴う諸問題への対処方法を体験的に学習する。
- ③データ分析の実施：指導教員のスーパーバイスを適宜受けることにより、分析結果の妥当性・信頼性を高めると同時に、分析能力を培う。

後期 第1週～第15週

- ④分析結果の考察：分析結果を踏まえて、文献検討により考察を深める。
- ⑤修士論文の作成：一連の研究過程の成果をまとめて修士論文を作成する。

4. テキスト： 研究課題にそって随時提示する。

参考文献： 研究課題にそって随時提示する。

5. 成績評価の方法：

データ収集・データ分析ならびに研究結果の考察、修士論文の作成の一連の過程における成果ならびに学習態度を総合的に評価する。

6. 履修の条件：特別研究以外の修了要件の履修単位が認定されているか同時履修中であること。

7. その他：特になし

科目名	特別研究			担当教員：鈴木 啓子	
科目名（英語）	Master's Thesis of Science in Nursing				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
8	2	前期・後期	1～2	看研 17	火曜日・金曜日 7限

1. 授業の概要：

専門演習の履修により作成した研究テーマに即した研究計画書をもとに研究を進め、修士論文を作成する。
倫理審査申請後、研究計画にそって、データの収集、分析解釈、考察など中間発表を行なう。その後、論文を作成し、公開発表のプレゼンテーションの方法を学ぶ。

このクラスの研究分野は、精神看護学分野である。主として、精神科における危機介入や看護職のメンタルヘルスおよび精神障害者のリハビリテーションおよび家族支援などの精神看護学に関連した対象の選定や具体的な研究の進め方、データ収集の方法と処理、分析方法、データの解釈について研究指導を行い、修士論文を作成していく。

2. 到達目標：

精神看護領域における研究課題に関する研究計画書に基づいて研究を実施し、その結果を踏まえて修士論文を作成する。

3. 授業の計画と内容

精神看護学特論Ⅰと精神看護学特論Ⅱ，専門演習(精神看護学)での学習を踏まえて以下の課題に取り組む。
(学生により進度は異なる)

前期 第1週～第15週

- ①フィールド開拓：研究協力の依頼ならびに研究対象者の選択の過程を通じて、適切なフィールドを開拓する方法を学ぶ。
- ②データ収集の実施：実際にデータ収集を行うことにより、適切なデータ収集の方法ならびにデータ収集に伴う諸問題への対処方法を体験的に学習する。
- ③データ分析の実施：指導教員のスーパーバイスを適宜受けることにより、分析結果の妥当性・信頼性を高めると同時に、分析能力を培う。

後期 第1週～第15週

- ④分析結果の考察：分析結果を踏まえて、文献検討により考察を深める。
- ⑤修士論文の作成：一連の研究過程の成果をまとめて修士論文を作成する。
修士論文は12月27日までに、学位論文審査願及び論文要旨を添えて、指導教員を経て研究科長に提出する。

4. テキスト：バーンズ&グローブ(黒田裕子他監訳, 2015年)「バーンズ&グローブ看護研究入門：実施・評価・活用」

エルゼビア・ジャパン

5. 成績評価の方法：

データ収集・データ分析ならびに研究結果の考察、修士論文の作成の一連の過程における成果ならびに学習態度を総合的に評価する。

6. 履修の条件：特別研究以外の修了要件の履修単位が認定されているか同時履修中であること。

7. その他：特になし

科目名	特別研究			担当教員：大城 凌子	
科目名（英語）	Master's Thesis of Science in Nursing				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
8	2	前期・後期	1～2	看研 13	月曜日・木曜日 7限

1. 授業の概要：

専門演習で作成した研究計画書をもとに研究を進め、修士論文を作成する。倫理審査申請後、研究計画にそって、データの収集、分析解釈、考察など中間発表までの指導を行なう。その後、論文を作成し、公開発表のプレゼンテーションの方法や論文提出までの修士論文作成の一連の指導を行う。

このクラスの研究分野は地域在宅看護学分野である。主として、在宅ターミナルや家族への援助を含めたコミュニティーケアに関連する研究について、フィールドワークや面接調査などによる研究手法を主体として研究指導を行い、修士論文を作成していく。

2. 到達目標：

地域在宅看護分野における研究課題に関する研究計画書に基づいて研究を実施し、その結果を踏まえて修士論文を作成する。

3. 授業の計画と内容

在宅看護学特論Ⅰ，在宅看護学特論Ⅱ，専門演習(在宅看護学)での学習をふまえて以下の課題に取り組む。

前期 第1週～第15週

- ①フィールド開拓：研究協力の依頼ならびに研究対象者の選択の過程を通じて、適切なフィールドを開拓する方法を学ぶ。
- ②データ収集の実施：実際にデータ収集を行うことにより、適切なデータ収集の方法ならびにデータ収集に伴う諸問題への対処方法を体験的に学習する。
- ③データ分析の実施：指導教員のスーパーバイスを適宜受けることにより、分析結果の妥当性・信頼性を高めると同時に、分析能力を培う。

後期 第1週～第15週

- ④分析結果の考察：分析結果を踏まえて、文献検討により考察を深める。
- ⑤修士論文の作成：一連の研究過程の成果をまとめて修士論文を作成する。

4. テキスト： 随時提示する。

「看護研究 原理と方法」 監訳 近藤潤子 医学書院
「APA 論文作成マニュアル」 APA 江藤裕之他訳 医学書
「フィールドワークの技法」 佐藤郁也 新曜社

5. 成績評価の方法：

データ収集・データ分析ならびに研究結果の考察、修士論文の作成の一連の過程における成果ならびに学習態度を総合的に評価する。

6. 履修の条件：特別研究以外の修了要件の履修単位が認定されているか同時履修中であること。

7. その他：特になし